

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	オークランドホーム 木洩れ陽
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	山形県南原町3丁目17-8
記入者名 （管理者）	管理者 古原幸子
記入日	平成 19年 5月 10日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続・地域生活の継続を支えるための支援を事業所としての理念がある。 ○	地域の中で暮らす為には、自分達から関わりをもつように努力をし、近所付き合いを重視し、職員、利用者が一人一人挨拶できるようにしていく。積極的に散歩や買物等取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしている。 毎年、理念の見直しを行い、職員全員でよいケアが出来るように意見の統一を図っている。 ○	毎日の申し送り、関わりの中で、理念を振り返りどう行なっているかを確認している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時、請求書を送る時等、現状を説明し、ホーム便りを活用してわかりやすく説明している。 地域の集まりやイベントに参加し、事業所を理解してもらえるように努力している。 ○	家族には面会時、その都度説明し現状に合わせて、協力してもらっている。 ホーム便りも、年4～5回送っている。 町内会の子供会の支援、盆踊り参加。地域との関わりは今以上密にしていける努力が必要と考えている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩、買物などに出掛け、近所の人達と挨拶を交わしたり、話しをしている。 ○	積極的に声掛け、挨拶をするように心掛けている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り等に参加し、利用者、職員も出来るだけ交流する事に努めている。 ○	決まった行事だけでなく、自分達の方から地域との交流ができるように、具体的に考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は地域の中様々な研修、会合に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。 随時、認知症の相談も受けて対応している。	○	グループホーム(認知症)に関心をもってもらい、理解してもらえるように努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価を取り組み、サービスの向上に努め、外部評価の結果を踏まえ、さらに改善すべきところは学習会等を聞き取り組んでいる。	○	全員に、年1回各自評価したものを提出してもらい、管理者が1つ1つ見直しし、職員の意識あわせを行いホームとしての評価として出している。これからも全員からの記入を続けていく方針です。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告は学習会で職員全員に伝えている。その中で事業所としての取り組み方を検討している。	○	事業所としての取り組みを具体的に検討し、情報だけでなく、サービス向上に活かせるように継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議又、山形市認知症グループホーム連絡会等に参加している。	○	市町村との連携は色々な会議、会等に参加する事で連絡方法、連携が出来るようになると思うので、参加する努力が必要と考えられる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員には説明している。 勉強会の中で理解を深めている。	○	権利擁護の研修会等に職員を参加させていきたい。管理者が説明はしているが、各自もっと勉強したいとの意見も多いし、これからは必要性が多くなると感じている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会、機会あるごとに虐待については説明し、虐待しないように取り組みを行っている。	○	(傷・あざを見つけたら)お互い気付いた時、申し送り等で話し合いの場をもっているが、虐待になり得るグレーゾーンも含め話し合いの継続が必要と思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学に来ていただき、契約時には時間をとって詳しく説明し同意を得るようにしている。	○	不安時にはすぐ契約を結ばず、体験入居という型を取り、本人、家族が納得した上で契約を行う方針をとっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、職員の思い込み、押し付けにならないように、利用者本位、利用者の思いに沿ったケアの運営を心掛けている。	○	利用者の声、行動に細かく注意し、職員の気付きを大事にしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書の中に現況、報告を入れて状況を説明している。 必要時はケース記録等も見てもらっている。	○	面会時、写真等で説明している。 ホーム便りを発行。 定期的にケアプラン、現状報告、経過表を説明し渡している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会来やすい場作り、何でも言ってもらえるような雰囲気作を留意している。家族の意見、希望があれば出来るだけ行う努力を検討している。 面会時は家族がゆっくり話し合ってもらえるように自室で過せる配慮等も行っている。	○	苦情、意見が出たら、すぐ対応し、結果を出来るだけ早く家族に伝えていく努力をしている。 職員が家族の問いかけ、ささいな事に十分気を付け、必要時全員に伝え検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	学習会、個別面談で職員を思い、意見を聞くようにしている。 日頃のコミュニケーションが重要だと思っている。	○	管理者はすべての職員の意見を聞くように心掛けているが、現実はずべて出来ているとは思っていない為、年に1回、職員の思いを書いて出してもらっている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせて、その都度必要に応じて、柔軟に勤務調整を行う為に人数確保している。	○	利用者に支障ないように、又、職員に無理なく勤務できるような対応に努めている。夜間の対応や急変時の対応(看護師)は柔軟にとれる体制になっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員は固定化している為、顔なじみになっている。	○	変更時はしっかり利用者説明し、入居長い利用者からは新しい職員に色々教え説明されている場面もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ外部の研修会には参加できるように配慮している。 学習会はパートの職員も参加している。	○	機会があればできるだけ参加される努力をしていきたいし、研修報告書も記入してもらっているし、発表の場も作っているが、さらに職員のやりがいに繋げたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県認知症グループホーム連絡協議会に参加。 山形市認知症グループホーム連絡会に参加。	○	県内・市内のグループホームへの交換研修を通して、他事業所の意見を活かしている。 県GH連絡会や市GH連絡会の学習会に出来るだけ多くの職員を参加させ、親や情報交換の場を設け各自のスキルアップになるよう取り組んでいる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職場の交流会、親睦会を行い、気分転換を図れるように機会を作っている。	○	年に1回、1泊旅行。 年に2～3回親睦会を行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士。 認知症専門士等資格取得に積極的に支援している。	○	個々の努力や実績を評価し、本人にも自信や意欲向上になるように職員の資格取得に向けた支援を行なっている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握しながらも、入居初期は職員一同きめこまかい配慮に努め本人の求めている事、不安なことに気づき、本人の身体的な事はもちろん、本人との関係づくりに努めている。	○	本人が求めている事、不安な事、出来る事を把握し、その人に合ったケアプランを立て、職員一同実施し、その中で気付いた点を追加して対応していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めている事を理解し、ホームとしてどこまで出来るか検討しながら行っている。 ゆっくり話を聞き、ご家族の苦労や他サービス状況を聞きながらケアに取り入れ、相談に対応している。	○	入居前、入居後、ご家族とゆっくり話し合う場を設けている。 今後も信頼関係がより深まるよう努力していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要と見極めた時は必要なサービスを紹介したり、柔軟な対応を行ない地域包括支援センターや他事業所のサービスが必要な場合は円滑に繋げる為にケアマネジャーに連絡している。	○	相談に来た人まずは本人と家族の思いを聴き、何か問題で困っていることなのかを見極め、すべてのニーズを抱え込むことなく、ケアマネ等と連携し対応している。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に共に生活する中で、利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう等の場面を多くするように工夫し、心掛けている。	○	利用者のこだわり、苦しみ、哀しみ、不安、喜び、楽しみなどを理解する。 年長者から生活文化の大事を教えてもらう。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為、家族と同じような思いで支援している事を伝えている。	○	職員家族に替わって行う擬似「家族」という関係でなく、家族と共に本人を支える姿勢で一緒にやっていく「家族」という関係を伝えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外泊で家族と一緒に過す事を勧めたり、行事などに参加していただき、よりよい関係の継続に努めている。	○	家族と本人の絆を大切にするために、状況に合わせて、いろいろ工夫する。(職員は受け方にまわる)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行き続けている為、その人の生活習慣を尊重している。	○	家族が定期的に連れていったり、自分がタクシーを頼んでもらい行く支援をしている。 又、馴染みな場所の掘り出しを探していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活のなかで本人の役割分担など利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。	○	時には集団で、又個別に接することで利用者の能力を知ることができ、利用者同士の関係作りを行い、孤立しないように配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了された方でも、行事、お便り等を出して遊びに来ていただけるように心掛けしている。	○	継続的な付き合いが出来るように心掛けしている。家族から連絡あれば対応している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、言葉や表情などからやりたいことや暮らしをそれとなく確認している。分からない時は、家族、関係者から情報を得ている。	○	本人がどこで、どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど等をかかわりの中で知る努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、本人・家族・関係者から聞いている。又、利用後、関わりの中でどんな生活をしていたかを聴いている。	○	本人自身の語りをじっくり聞くように努めている。個人のプライバシーに配慮しながら、本人家族、面会者から聴いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解するとともに、行動や言動、動作から感じとり、出来ない事より出来ることに注目し、その人の全体像を把握している。	○	個人を尊重しながら一緒に行うことで、その人らしさを認め、残存機能の発見につとめ支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って介護計画を作成している。	○	定期的カンファレンスを行っている。又、センター方式を使用し本人や家族の思いを汲み取るアセスメント様式を活用している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的又は状態が変化した時は、随時、見直しを行っている。ご家族やご本人の要望も取り入れつつ見直しをしている。	○	最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集め、現状に即した介護計画作成に努めている。日々の記録にも何かあれば職員が分かりやすくするためマーカペン等で線を引き早めに対応できるように情報を流している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを利用し、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。記録は各自読み、申し送り等で情報の共有を徹底している。	○	記録の仕方を工夫。 ケアプランにそって実践し、評価を行うように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように警察、消防署などに協力を得られるようお願いに行っている。 図書館からいらなくなった本等いただき活用している。	○	民生委員、家族等にも参加していただき協力を得られるようお願いしている。 消防署の助言に基づき安全な環境づくりに配慮している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が以前利用していた通所の事業所の友達がホームに来たり、行ったりしている。	○	必要に応じて、以前のケアマネ等に連携をとっている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加することにより、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係が出来、支援できるようになった。	○	地域包括支援センターと連携出来るように努めている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行っている。 利用者が受診している複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	○	事業所に往診にきてくれる先生もいるが、本人及び家族が希望するかかりつけ医の受診には、代行で職員が行う体制になっているが、家族の協力も得るように連携を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に指示や助言をもらっている。	○	認知症は病気として考えているので、定期的に適切な指示や助言をしてくれる先生が必要だと考えている為、家族や職員の話を聞いてくれる医師が必要と考える。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師のため、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。 医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。	○	急変があった場合、すぐ連絡とり対応できている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。	○	家族等とも行動しながら、医療機関と三者一体となって退院計画が早くなるように努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。 状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い、支援に繋げている。	○	終末期に入ったら、関係者全体の方針の統一が必要。(本人・家族等・かかりつけ医他) 職員のケアの統一
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得して、最期を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。	○	重度や終末期の利用者を支える為に、チームの連携・職員の力量を伸ばすために努力している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。	○	本人に関わる関係者の協力が得られるように、情報収集を行い、関わりの中で本人が大切に思っている事を知るように努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応するように、学習会、申し送り等で徹底を図っている。	○	他のご家族や来客者に対して、本人のプライバシーに関する事は話さない。 個人情報保護法の理解に努めている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声掛けし、職員側で決めた事を押しつけるようなことはせず、選択できる場面作りをしている。	○	個々に合わせて、些細な事でも自分が決定できる場面を作る努力をしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人一人の体調や生活習慣に配慮しながら、本人の気持ちを確認してできるだけ個別性のある支援を行っている。	○	本人のペースに合わせて、1日を過している。 利用者のペースを守るため、職員同士がうまく連携し、支援するように努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的には本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時だけ手伝っている。 しかし、自己決定がしにくい利用者には、毎日同じ副にならるように配慮している。おしゃれは、本人が楽しんでもらえるように支援している。本人馴染みの美容室で希望に合わせたカット・染めたり等が出来るように支援している。	○	大鏡、小鏡を利用し、本人見て納得いくまで行っているの で、見守りや支援を行っている。 身だしなみ、おしゃれにはかなり気をつけている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている。調理・盛りつけ・片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事できるようにしている。	○	食材、野菜の下準備、味見等は利用者が行えるように見守りしている。職員も三食共一緒に食べて会話しながらゆっくり食べている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好物理解し、楽しめるように支援している。お酒は本人の希望の時、行事の時等に合わせて支援している。 おやつも10時、3時、差し入れ時と行っている。	○	誕生日の時は本人の好きな物を準備し、行事に合わせて食器、食材等を工夫し、飾りつけ等にもかなり凝って行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や週間を把握し、トイレ誘導をすることで、日中はトイレで排泄する方向を提している。 排泄チェック表を使用し、尿意ハッキリしないひとでも時間を見計らって誘導することでその方に合わせたトイレで排泄する支援をしている。	○	日中はトイレで排泄する方向で取り組んでいる。 オムツ使用者でもトイレで行ける方はトイレで排泄するように努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認して入っていただいている。時間も日中だったり、寝る前だったりしているが、本人の気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	○	週2～3回のペースで入浴していただいているが時間は本人のその日の体調等で決めて対応している。流動的に対応。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動の工夫をしながら、生活リズムを整えるように努めている。ソファやイス等休息の場は多くとってある。	○	一人一人の休息パターンを継続して支援している。寝る前は足浴を行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意分野を把握し、力が発揮できるように出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにする。 行事食等は必ず相談しながら行っている。	○	プランターでの菜園、梅干作り、漬け物等や生花や卓球、オセロゲーム等個に合わせて楽しみながら趣味や楽しみや役割が発揮できるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て本人の能力を活かす為にもお金をもっている人もいる。 他は事業所で立て替え領収書と交換している。	○	常時、本人が欲しい物があれば職員付き添いで買物し楽しく、又、満足出来るように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の希望に応じて、外で五感を活用できるように日常的に散歩、買物にあるいは外食等に出掛けている。一人一人に合わせて、喫茶店や美術館等にも出掛けている。	○	本人の体調を見ながら職員の連携をとり、随時、外に出る工夫を行っている。 1対1で外食に出掛けたり、ドライブに出掛けて気分転換をはかっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1～2回、利用者・職員全員で一泊旅行を行っている。	○	花見の時期や忘年会の頃。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機の使用可能なため、自室に受話器をもっていくことで、他者に聞かれず話す事ができている。 手紙、年賀状等は必ず出すように支援を行っている。	○	本人自室でゆっくり話し込んでいる。内容は必要以外あまり聞かないようにしている。 手紙、ハガキ等の支援は常にできるように準備してある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けており、食事時に来た時は一緒に食事をしていただけるようにしている。 他者に気がねしないようなスペースも確保している。	○	親の家を訪れるような気軽に来やすい事業所作りを心掛けている。 家族でゆっくり自室で話ができるように配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会で身体拘束について確認したり、職員が自覚していない身体拘束が行われていないかなど点検を行ったり、話し合い職員の共有認識を図っている。	○	『どんなことがあっても拘束を行わない…』という基本的な姿勢で取り組んでいるが、必要時は十分話し合いを行ったり、相談したりするように努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、その人のその日の気分や状態気配をきめこまかくキャッチする工夫を行っている。	○	日中は鍵をかけていない。職員の見守りや連携プレーで対応している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行ないながら、さりげなく利用者の状況を把握するように努めている。 夜間は物音がすればすぐ訪室し確認しているが、個々に合わせ2～3時間毎に巡視をしている。	○	昼夜共に職員が利用者を見守りやすい位置におり、さりげなく利用者を見守っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によって注意を促し、その都度ケースに対応をしている。	○	保管場所をしっかりと決めておく。 (包丁・洗剤・薬等)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりハットを記録し、職員の共通認識を図っている。 万一の事故が発生した場合には速やかにマニュアルに沿って対応する。	○	事故は忘れた頃、慣れた頃におきてしまうので職員の意識づけが常に重要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当が出来るように学習会や研修会で習得するようにしている。緊急時対応についてはマニュアルの周知徹底を図っている。	○	夜間時の対応には不安があるが、一人一人の職員の能力に委ねるしかない状況であるので、機会を作り何度でも学習会が必要と考えられる。事業所としては実体験する機会が少ないので経験をすることが少ないので学習していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練、経路の確認、消火器の使い方などを定期的に行っている。	○	利用者とともに火災発生を想定した避難訓練を行なったが、継続的に行う重要性を職員全員感じているので取り組む予定。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	鍵をかけないことや自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくすることを家族に説明し、理解し協力してもらうようにしている。	○	活動の内容により起こり得るリスクについて職員自身がしっかり理解し、家族に説明していく必要あり。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化が現れたら、バイタルチェックを行ない直ぐに管理者に報告するとともに職員間で共有し、状況により医療受診につなげている。	○	常に一人一人の体調や変化に注意するように学習会、申し送り等で確認している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が分かるようにケース毎に整理されている。薬は毎食毎回きちんと服用確認している。薬のためと思われる本人の状況変化があった時はすぐ報告し、医療機関との連携を図れるようにしている。	○	全員が薬の内容が分かるように処方箋をケース毎に整理されている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品をとり入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を設けて自然排便出来るように取り組んでいる。	○	朝、水分1杯や、牛乳1本飲んでいただいたり食材にも注意しながら、自然排便に取り組んでいる。必要時、下剤も使用し便秘にならないように支援している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアは必ず行なっている。力に応じて職員の介助を行なっている。	○	口腔ケアの重要性を全ての職員が理解し対応している。口臭のある人等はモンダミン等を使用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェック表に記録し、職員が共有している。おおまかに摂取量を把握している。定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらって対応している。	○	1日1400～1500cal → 糖尿病 1200cal 水分1000～1500ml 尿量などもチェックしながら水分補給には十分気をつけている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	早期発見、早期対応に努めている。利用者および家族に同意をいただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。 感染症に関するマニュアルを作成している。	○	感染症に対する予防と早期発見、対応を職員に周知し、常に新しい知識、技術を知らせて対応にあたり、職員がこれを知り、流行しないように努力する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん等は毎晩漂白し、清潔を心掛けている。 冷蔵庫も点検、掃除し、食材の残りは処分する。 調理器具、水周りの清潔、衛生を保つよう、取り決めて実行している。新鮮な食材を使用し、買いだめをしない。	○	定期的に点検している。職員の意識度をしっかりつける。 (食中毒の怖さを知る)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、プランターの花等を置き、季節感を出している。	○	普通の家だという感じで、昔懐かしい家という雰囲気を大事にし、建物自体が民家なので違和感がないように配慮している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地良い音楽等五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をし、フロアの飾り付けは利用者と一緒に行ない、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるように工夫をしている。 明かりは安心感がもてる明るさに調整している。	○	利用者が多く過す共有場所には季節感のもの、自室には利用者の居心地よい場所、安心感のある場所作りを工夫し、心掛けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには生花等を飾り、イスやソファで居心地の良い空間を作っている。	○	共有空間の中に自分用のソファが用意され、利用者同士で思い思いに過ごしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が、自室にそれぞれ持ち込まれている。	○	それぞれ自分の馴染みのもの希望するものを家族と共にもって来ている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子をみながら調整している。 トイレ等は換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。	○	温度調整は職員の感覚だけでなく、利用者の好みや状況に配慮して行なっている。 換気する時は利用者に声掛けてから行うようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて声掛けし、手すり等は工夫している。 居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	○	利用者の現在の状況を把握して、できるだけ危ない部分は見守り、介助などを行ない、全部をフラットにはしないで、段差を昇格する能力をなくさないように職員の意識によって見守りを強化して対応している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとってどうしたらいいかを追及し、失敗や混乱が無いよう本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように支援する。	○	本人の能力に合わせた対応。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にプランターで野菜を栽培でみずやりの仕事、収穫を楽しみながら、活動できるような環境を作っている。	○	利用者の興味活動を生かし、生きがいに繋がっている。 育てる、収穫する喜びの支援。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家改装型の小さなホームです。利用者も7人という中で職員が一人一人にゆっくりかかわり、その人らしく共に生活する場として関わっています。自分ができる事を行ないお互い助け合っのんびり過ごす場所です。時々昔を思い出して若い頃の自分探しに出掛けている私達です。大声で笑ったり、急に淋しくなり一人ではいられない時は、いつも誰かが利用者や私達のそばに居てくれるので安心です。ここのホームの中は暖かいです。
淋しかったり、不安だったら私達と一緒に過ごしませんか。いつでもお茶飲み等に来ていつでも帰れるもう1つの新しい形の家族の家です。